

メーデー報告

第89回全道メーデー報告

5月1日、労働者の祭典メーデーが開催され、今年で89回目となったメーデーは、大通公園8丁目広場に5000人（2000団体）が参加しました。

今年はメインスローガンに「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう！働く者のための働き方改革を進め、すべての仲間と結集しよう！」を掲げ、私たち貨物鉄産労もJR連合旗の下にJR北労組の組合員と共に参集しました。

当日は労働者の祭典を祝うかのような満開の桜に降り注ぐ暖かな日差しの中で開催され、式典では連合北海道出村会長が「憲法をねじ曲げ、強行採決を繰り返し、隠蔽、改ざん、抑圧、権力乱用と安倍内閣は最も醜い姿を露呈している」「立憲主義、民主主義の危機であり、安倍内閣は総辞職、即刻退陣すべき」「明年予定されている知事選を頂点とする統一地方選挙と参議院議員選挙の勝利を」と参加者に訴え、最後に「平和で安心して暮らせる社会、額に汗して働くものが報われる社会、誰もが希望が持てる社会をめざして、引き続き運動を進めていく」と、挨拶がありました。

その後、阿部北海道副知事、秋元札幌市長、荒井連合北海道国會議員団会議長が挨拶をおこない、最後にメインスローガンとメーデー宣言・特別決議案2本が採択され、団結ガンバローを三唱し、札幌市内を3つのグループに分かれてパレードを行いました。

JR連合在札協議会交流会
メーデー終了後、恒例の「JR連合在札協議会交流会」が市内で開催されメーデー参加者全員で参加しました。交流会は主催者挨拶・乾杯ではじまり、限られた時間で盛り上がるな



全道メーデー



交流会

か、JR議員団の道議・市議、国會議員からの挨拶を受け盛大な拍手で歓迎しました。交流会ではJR北労組・貨物鉄産労の両組合員が楽しいひと時を過ごし、参加者それぞれが職場で奮闘することを確認しあいました。

連合秋田メーデー報告

4月28日、連合秋田（黒崎保樹会長）主催の第89回県中央メーデーが秋田市内「エリアなかいちにぎわい広場」で開催され、約30団体、約1800人の労働組合員が集まり、貨物鉄産労からは3名が参加し、働き方改革の推進などを訴えました。

黒崎会長は「長時間労働の是正や介護、看護休暇の取得など、身近な働く環境の見直しを求めていく」と挨拶され、来賓の佐竹敬久知事も「秋田をいかに守り、発展させていくか、皆さんと共に取り組む」と述べました。式典の最後には参加者で「団結ガンバロー」を三唱し、その後JR秋田駅前をパレードしました。



秋田メーデー

静岡浜松地区メーデー

4月22日、浜松城公園広場において第89回浜松地区メーデーが開催され、貨物鉄産労から3名が参加し、全体では約3000名が、今年のスローガンである「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう！働く者のための働き方改革をすすめる」すべての仲間と結集しよう！の下、集まりました。

通常国会で働き方改革の審議が深まる中、開催されたメーデーでは各来賓の方々は「働かせる側ではなく働く側にとつての改革でなくてはならないこと、控える選挙に向け、頑張っていく」と挨拶されました。メーデー宣言提案では、議長がメーデーの起源「第1の8時間を仕事に、第2の8時間を睡眠に、そして残りの8時間を好きなことに」について触れ、「労働者のワークライフバランスを守っていく」と発言されました。採択では、会場から数多くの拍手により可決され、盛況の内にメーデーは閉会しました。閉会后、毎年恒例お楽しみ大抽選会が行われ、数字が呼ばれるたび参加者から歓声や悲鳴があがり、大いに盛り上がりを見せました。残念ながら貨物鉄産労からは誰も商品を当てることができず、肩を落としながら会場を後にしました。



大阪支部・広島支部報告

5月1日、大阪支部、広島支部は地方メーデーに参加しました。

主催者挨拶では「2018春学生活闘争」について触れ、賃上げ率や額、非正規労働者の賃上げなどが昨年同時期を上回り、春闘の構造転換が浸透しつつあることを述べるとともに、いまだ交渉中の労組への支援を求めました。また、「働き方改革関連法案」について「罰則付きの時間外労働の上限規制や同一労働同一賃金の法整備は早期に実現すべき」としたうえで、「高度プロフェッショナル制度」や「中小企業の60時間を超える時間外労働の割増賃金率に対する猶予措置」に対して、働く者を顧みない判断であるとして批判し、そして人を大切にする政治、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、力強い取り組みを展開していく決意を述べました。

メーデースローガンとメーデー宣言の採択では、平和・人権を守り、「ディーセント・ワーク」「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けて



大阪支部 (次ページへ)

全力で取り組むことを確認し、最後に会場全体の「団結ガンパロー」でメーデー式典を締めくくられていきます。(大阪3万2千人、広島7千名が結集。メーデー参加後、それぞれ懇親会を開催しました。)



広島支部

九州・各地区本部

4月28日(土)10時より、小倉北区ミクニワールドスタジアム北九州において、連合北九州地域協議会主催による、「第89回北九州メーデー」が開催されました。当日は天気も良く、約3000人組合員及び家族が結集し、北九州支部から8名がJR連合北九州地域協会の仲間とともに参加しました。

主催者を代表して堂原議長は、今年の春闘に触れ、「暮らしの底上げ・底支えをテーマに取り組んだ結果、昨年より状況は好転している」などと述べました。続いて、「働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう!」のスローガンや「日本社会は、未だ長時間労働が後を絶たない。過労死・過労自死、雇用形態や性別などの違いによる格差問題などが深刻化している。春季生活闘争における『底上げ・底支え』『格差是正』の取り組みを社会全体

に波及させるとともに、安心と信頼の社会保障制度の確立を目指していく」とのメーデー宣言を採択、最後は浅野副実行委員長の「団結ガンパロー」で閉会しました。



北九州支部

福岡支部は、4月28日(土)、10時より、福岡市・舞鶴公園で開催された、第89回福岡メーデーに組合員が参加しました。終了後、デモ行進を行いました。



福岡支部

第89回メーデー大分県中央大会は、4月28日(土)、午前10時から、大分市・若草公園で開催されました。爽やかな快晴の中、多くの労働者やその家族が集まりました。

大分支部も、JR連合大分県協議会として、JR九州労組大分地本の仲間とともに参加しました。本年度の「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう!働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう!」のスローガンを採択し、式典が進められ、最後に「ガンパロー三唱」で終了しました。



大分支部

JR連合 第10回安全シンポジウム

JR連合は、5月10日、広島市内において、第10回安全シンポジウムを開催し、辻村本部書記長・関西地区本部7名・中国ロジ労組6名・南関東ロジ労組2名、計16名が参加しました。冒頭、犠牲になられたすべてのJR関係者に対し黙祷を行い、河村事務局長による開会挨拶で始まり、主催者挨拶ではJR連合松岡会長より、安全で社会に信頼されるJR産業をつくり、すべてのJR関係労働者の幸せの実現にむけて、着実に行動していくことを強く訴えました。

シンポジウムは基調講演・各単組からの取組報告・パネルディスカッションの3部構成となっており、基調講演では、講師に西日本旅客鉄道株式会社安全研究所所長 河合篤氏より、テーマ「ヒューマンエラーを減らすために

「ヒトの特性とヒューマンエラー」について講演され、続いて各単組からの取組報告では、JR西労組・新生テクノス労組・JR九州メンテナンクス労組の順に、安全確立に向けた取組について報告されました。続いてのパネルディスカッションでは、JR連合安全対策委員会尾形副委員長をコーディネーターにし、公益財団法人労働科学研究所所長・酒井一博氏、西日本旅客鉄道株式会社鉄道本部安全推進部安全マネジメント戦略室担当室長・高本桂也氏、航空連合・JR西労組・新生テクノス・JR九州メンテナンクス労組をパネリストにし、テーマ「ヒューマンエラーにどのように向き合っていくか」を討議しました。

議題の前身として、「ヒューマンエラー」に着目した取り組みの現状と課題「会社組織の枠を超えた安全衛生管理体制の追求」「企業グループ全体での情報共有・意思疎通への取り組み」「背後要因の分析としてのリスクアセスメント・ヒアリング報告等に対する取り組み」「最近の重大事象・死亡労災にみた具体的な背後要因について」「今後、ヒューマンエラーにどのように向き合っていくか」等をパネリストと共に議論し、最後に議論内容を踏まえた総括まとめを閉会挨拶でシンポジウムは閉会しました。

参加し、印象に残ったことを報告します。例えば、安全対策に関する会議をしているとして、参加者の中に、早く会議を終わらせたいという気持ちでしまし、ここで発言すると会議が長引いてしまし、他の人に迷惑をかけてしまし、から発言を控えようという気持ちから上司先輩への配慮等が働き、結局、会議の自身が具体的な議論が出来ないまま終わることがあり、本来の意味での対策が出来ていない。社内における先輩後輩のコミュニ

ケーションが減った。最近では休み時間にスマホ等のゲームやSNSに集中し会話が無くなった。仕事の話以外の事柄についてもお互いの情報交換をし、相手のことをよく知ることが大切なことである。

・災害発生時、10%の人は落ち着いて行動し、80%の人は呆然とし、或いは凍り付き、10%の人はパニックを起こす。災害時、何が一番心配か?という質問に多くの人が「スマホの電池残量」と回答した。人間は、危機が迫っていても日常の行動を続けようとし、自分の身には起こるはずがない・周りの人が避難しないから大丈夫と思ってしまう。また、多くの人がスマホを持っていることで、ほとんどの人がカメラマンとなり、危機的状況下でも、その一瞬をカメラに収めようと非難をしない人が出てくる。災害時、駅員・乗務員がお客様に対し、必死に非難を呼び掛けても、その場に居続ける人が多数出るのではないか。

・飛行機は、500人の乗客を乗せてフライトとすると、なれば、499人でも501人でもフライト出来ない。新人の頃、先輩に強く怒られ、今でも心に刻んでいるが、ある日、先輩から「乗客の人数は確かめたか?」と聞かれ、フライトの遅れ・他の飛行機への影響が気になり、「多分、大丈夫です」と返答したところ、「安全は何事にも変えられない」と強く怒られた。飛行機は離陸したら止まることは出来ない。



JR連合 安全シンポジウム